

谷・岩壁にあいた幾つかの洞穴や天然橋の中で、最大の洞穴が乳岩である。天井から数 cm の乳頭に似た鍾乳石がたれ下るので、この名がついた。

阿寺の七滝

(南設楽郡鳳来町下吉田 国, 名勝)

中央構造線のじょう乱帯中にだけ分布する七滝礫岩層(和泉層群上部に対比される)の深い峡谷底に全長64 m 落差約40 m にわたってかかる7つの滝。一番下の滝つぼ以外は滝つぼが罅穴に似ている。七滝礫岩層の礫は人頭大以下の円礫が密集しており、断層運動に伴って、円礫が中央部で切断された“くいちがい石”になっているものがみられる。

文 献

東 洋一(1991): 手取層群からの白亜紀前期の恐竜動物群—手取層群産恐竜化石の研究(1)—三浦静教授退官記念論集, 55-69.

東 洋一・長谷川善和(1987): 手取層群より産出した恐竜化石類とその意義, 古生物学会第136回講演予稿集, 1.

藤井昭二(1983): 富山湾黒部川扇状地沖埋没林の研究, 昭和57年度科研費成果報告書64 p.

藤井昭二・奈須紀幸(編)(1988): 海底林, 東大出版会163 p.

東野外志男・清水 智(1987): 福井県三國海岸に産出する火山岩類の K-Ar 年代, 石川県白山自然保護センター研報, 14, 25-30.

Hiroi, Y.(1981): Subdivision of the Hida metamorphic complex, central Japan, and its bearing on the geology of the Far East in pre-Sea of Japan time. *Tectonophysics*, 76, 317-333.

Hiroi, Y., Fuji, N. and Okimura, Y.(1978): New fossil discovery from the Hida metamorphic rock in the Unazuki area, central Japan. *Proc. Japan Acad.*, ser. B, 54, 268-271.

堀 武義・稲葉左馬吉・牛丸周太郎(1981): 岐阜県の天然記念物, 植物・動物・鉱物(上)(下), 教育出版文化協会, 196 p.

加藤碩一(1980): 坂城地域の地質(5 万分の 1 図幅), 地質調査所.

河野義礼(1938): 猿投山産球顆岩石の化学的研究, (I), (II), 岩鉱, 20, 14-25, 60-70.

木戸 聡(1982): 岐阜県七宗村上麻生における三疊紀チャートとジュラ紀質頁岩の産状について, 大阪化石研究会誌, 特別号, 5, 135-151.

Kuno, H.(1936): On the displacement of the Tanna Fault since the Pleistocene. *Bull. Earthq. Res. Inst.*, 16, 131-143.

松田時彦(1984): 概説丹那断層, 月刊地球, 6, 136-140

Sato, T.(1955): Les ammonites recueillies dans le Group de Kuruma, Nord du Japon central. *Trans. Proc. Palaeont. Soc. Japan*, N. S., 20, 111-118.

Shibata, K., Nozawa, T. and Wanless, R. K.(1970): Rb-Sr geochronology of the Hida metamorphic belt, Japan. *Canad. J. Earth Sci.*, 7, 1383-1401.

信濃教育会下伊那部会編(1925): 下伊那地質誌, 古今書院, 280 p.

静岡県地学会編(1983): えんそくの地学—静岡県の地学案内, 黒船出版会, 249 p.

鈴木 尚(1962): 三ヶ日人と三ヶ日只木石灰岩採石場の含化石層, 人類雑, 70, 1号

竹内英雄(1939): 毛無山産球顆岩石の研究及び其の附近の地質 (I), (II), 岩鉱, 22, 69-99, 101-117.

富山県教育委員会編(1984): 富山県の文化財, 富山県文化振興財団, 276 p.

土 隆一編(1985): 静岡県の自然景観—その地形と地質, 第一法規出版, 266 p.

Yamaguchi, M. and Yanagi, T.(1970): Geochronology of some metamorphic rocks in Japan. *Eclogae Geol. Helv.* 63, 371-388.

YAMADA Tetsuo (1992): Natural monuments in the Chubu District.

<受付1992年 3月12日>

私の推薦する天然記念物

坂下町の阿寺断層

(岐阜県恵那郡坂下町松源地~坂下新)

木曽川に沿って、木曽谷の入口ともいべき岐阜県の東端坂下町にはみごとな河岸段丘が発達する。中部日本の代表的な活断層が、それらの段丘面を切って、地形的に左ずれの水平変位量と垂直変位量を読みとることができるし、木曽川河床には濃飛流紋岩の破碎帯が露出する。

段丘面は高い方から松源地面、高部面、坂下面、西方寺面と区別されるが、それぞれの地形面の変位量は、次のごとくである。松源地面——水平方向130 m<, 垂直方向31.5 m, 高部面——水平75

m<, 垂直25.5 m, 坂下面——水平37 m, 垂直9.6 m, 西方寺上位面——垂直4.8 m, 西方寺下位面——垂直2~4.1 m (木曽谷団研グループ, 1964)。高部面の上に載る泥流堆積物(27,800±2,000 B. P.)を基準にして水平変位速度を求めると 3 m/1,000年となり、日本でも第1級の活断層であることがわかる。この部分は、生活面であり、すでに道路工事や、石垣を組むことなどで断層崖や、段丘面のずれの部分が見えなくなっている。今後の開発によって、大規模な破壊を蒙らぬよう、地元の住民の生活を妨害しない範囲での保護が望まれる。